

令和2年7月2日

学校法人三幸学園  
札幌医療秘書福祉専門学校  
校長 榊田 規文 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 笹田 直人

### 学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 濱田 朋里 (札幌禎心会病院 係長)
- ② 久保 博文 (王子総合病院)
- ③ 市川 亜希 (新札幌豊和会病院 第21期卒業生)
- ④ 薄井 智也 (耳鼻咽喉科麻生病院 医事課長)
- ⑤ 佐々木 亮 (北海道厚生農業協同組合連合会 人事課長)
- ⑥ 高田 基秋 (市立千歳市民病院 課長)
- ⑦ 笹田 直人 (禎心会法人本部 常務理事)
- ⑧ 萬 昭宏 (杜の会 理事)
- ⑨ 大谷 貴浩 (手稲リハビリテーションセンター 次長)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年6月30日

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2019年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 植野 いずみ 伊藤 信

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笹田 直人

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療・福祉分野の学校として「医療、福祉現場を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療・福祉分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

#### 重点目標

##### 1) 生徒指導について

- ・生徒が目指す就職先の魅力を各教科から伝えていく
- ・就職した際に即戦力になるための授業を実施(受付対応、クレーク業務、介護)
- ・生徒が自ら研究したい事を選び、考えて発表できる環境作り(研究発表会、シミュレーション大会)

##### 2) 教職員に対して

- ・WEBを使用して、生徒や学校の情報等タイムリーな情報共有徹底
- ・授業にWEBの活用。動画やスライドを使用しての授業展開(各教室プロジェクター設置)
- ・教員全員が生徒の目指す職業の理解力向上のため勉強会実施
- ・授業力向上のため、教職員同士の授業見学実施

##### 3) 保護者に対して

- ・保護者と担任の連携を強化するために、保護者会をクラスごとに実施

##### 4) 就職先に関して

- ・生徒の長期就労を目指し、就職先と生徒のお互いのニーズを理解する就職指導実施
- ・実習から就職へ内定をもらえる仕組み作り

### ② 学校関係者評価委員会コメント

・薄井委員(医療秘書科として):WEBの活用、先生方同士の勉強会や授業見学の実施など、貴校をはじめ先生方の様々な工夫や意識の高め合い、そしてご苦勞が窺える。

・久保委員(診療情報管理士科として):『生徒が目指す就職先』とはどのようなところなのか。どのようにイメージしているのだろうか。

生徒のイメージを理解し、『魅力を各教科から伝えていく』と共に現実的なところも示すことが必要と考える。

・濱田委員(診療情報管理士科として):学生にとって、高校卒業後の教育機関に対し、明確な目的を持って入学する学生もいれば、当面の目的無く入学してくる学生も少なからず存在しており、標記目標を設定とした取り組みが「学校の熱意＝学生の熱意」に直結せず、教育機関としては常に模索している状態と思う。よって、何が正しいの

かという事は断言できないが、学校としての教育目標としては適切であり、計画内容においても一定の効果が期待できると思う。但し、会議の時だけの「表向き」の目標にせぬようより一層の努力を期待したい。

・高田委員(医療秘書科として):教職員の授業力向上に向けて、教職員同士の見学のほか、教職員と医療機関関係者等との座談会なども授業力向上につながるのではないかと。生徒の長期就労を目指しているが、具体的な数値目標を掲げるとさらに良いのではないかと。

・笹田委員(介護福祉科として):実習先が就職先となる事例が多くなることは、実習先の指導内容の向上が図られ、効果的な実習内容へとつながる結果となっている。研究発表の内容が格段に向上している。各グループにおいて研究への取り組み姿勢が熱心であり、発表のプレゼンテーション技術は高いレベルにある。

・佐々木委員(医療秘書科として):道内の医療機関では、医師や看護師のみならず、ここ最近では、事務職の地方勤務希望者(若年層の都心部勤務の傾向大)が激変している状況にある。地方医療を支える医療スタッフの確保にもご尽力頂けると幸いである。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

教育理念や目標などを保護者に周知する機会が昨年度よりも増えたが、生徒には行事や就職活動などを通じて自ら考えられるような仕組みが必要である。学校の理念や目的は普遍的なものであり、継続的に様々な形で伝えていく必要がある。

業界のニーズを把握するためにも産学連携を強化し、時代の先を読むことが重要である。そのためにも教職員が外部との交流の機会を増やし、業界の動きに柔軟に対応し続けることが必要不可欠である。

#### ② 今後の改善方策

生徒には情報を与えるだけでなく、「どのような人材が社会で求められるか？」考えさせる時間を作る。

2018年度の保護者会は新入生のみ全学科で実施していたが、2019度は学科ごとに実施し、その後クラスに分けて担任より学校の説明を行った。今年度は全クラス(進級生・新入生)に実施して、少人数にて担任より説明をしていく。

生徒には長期就労を視野に入れた指導を行うため、担任や教科担当だけでなく、卒業生や業界の皆様や卒業生に来校してもらい、現場の生の声を聴き、将来像をイメージしやすくするとともに、就職後にも支援ができる環境を整えていく。

#### ③ 特記事項

特に無し

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・大谷委員(介護福祉科として):保護者に対して少人数での説明の場を作ることにより、より学校側との意思疎通が取りやすくなり、お互いの理解に繋がり有効な方法だと感じる。

・笹田委員(介護福祉科として):就職先においても法人理念や運営方針を明確化し、全職員への教育の指針としているところが多い。在学中において学校の理念・目的等生徒が理解し行動する習慣は、卒後の社会人として行動規範として必要不可欠なことと思われる。就労先となる医療・介護現場では、特にチーム力が全ての職場で求められる。これらの教育は正に在学中の教育機関に求められている。行事や外部交流などの場に「チーム力」を養える体験が必要と思われる。卒業生や業界人の生の声は、就職に向けての自己啓発に大きなきっかけとなることは確実である。入学当初よりこれらの機会を多く持つことは有効である。

・萬委員(介護福祉科として):「どのような人材が社会で求められるか。」考えさせる時間を作るとあるが加えて「何故・どうしてそのような人材が求められるのか。」まで考えることが最重要だと強く感じる。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

「働き方改革」が推進され、情報システム化により業務の効率化を目指すとともにライフワークバランスの見直しがされているが、不十分な面も多く業務改善や慣例業務の取捨選択の必要がある。

情報システム化に伴うソフト面の準備は進んでいるものの、全教職員への説明と理解を求める事も重要課題である。

コンプライアンスの意識向上は進んでいるが、コンプライアンスも多種多様になっており、時代とともに変化・発展し続けることが課題である。

### ② 今後の改善方策

情報システム化に伴い、意識改革が重要である。自分達から業務のスリム化を図っていく。特に恒常化されている業務においては、必要業務なのか精査していく。

コンプライアンスは、変化していくと捉え新入教職員をはじめ、全職員で意識を持たせる。学園のスケールメリットを活かし、事例を共有していく機会を全体会議だけではなく WEB 等を利用して学ぶ機会を増やしていく。

情報のシステム化には、環境導入だけではなく使いこなす知識・技術は必要となるため研修を実施していく。

### ③ 特記事項

特に無し

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・薄井委員(医療秘書科として):対人関係の効率化やスリム化は困難を極めるが、対業務や対作業は頻度と重要度のクロス分析によるプロットによって、改善着手が必要と思われる部分が可視化され、成果への結びつきが期待されると考える。

・久保委員(診療情報管理士科として):『外部との交流の機会を増やし、業界の動きに柔軟に対応し続けることが必要不可欠』という点に同意見である。ただ、業界の動きに現場がついて行っていない場合もあるため見極めが大事だと思う。北海道医事研究会、日本医師事務作業補助研究会(北海道支部)、北海道診療情報管理研究会等の団体情報やセミナー情報を取得するとよいと考える。

・濱田委員(診療情報管理士科として):働き方改革に伴う業務の見直しや改善は、どの組織体においても難題であり、現場への効果も、即効性のもから遅効性のももあり、評価も難しかったと思う。教育現場の運営は、時代とともに常に見直しを行わなくてはならず、日々、学生対応に追われつつも、効率的な運営を目指し、業務のスリム

化等を促進している姿勢は特記すべきである。但し、効果が遅効性の改案においては、時代と共に常に見直しを図らなくてはならず「小手先」だけの改革にならぬよう気を付けて頂きたい。

・笹田委員(介護福祉科として):会議の在り方は早急に整備し、恒常的な会議等は廃止・簡略化が社会的にも通例となる。ICT化による業務の効率化が必要である。

・萬委員(介護福祉科として):三幸学園は、よくできていると感じていて問題ない。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

現場実習先から評価を頂いている生徒についての結果の活用が不十分である。

保育・介護分野の産学連携は出来ているが、医療系は発展途上であり、今後様々な形で進めていく必要がある。外部関係者からの評価をいただけるタイミングが実習と限られているため、結果の活用はもちろんのこと意見をいただける機会を増やしていくことが大きな課題である。また意見をいただける信頼関係の構築も急務である。

カリキュラムについては編成、見直しは外部の意見を取り入れているが、まだまだ不十分である。

現在も関連業界の現場で仕事している方に、実際に教員として授業していただき最先端の情報や今必要としているニーズなどを生徒へ伝えていく機会を増やしていく必要がある。

#### ② 今後の改善方策

積極性が不足しているという話も実習先から頂くため、外部との意見交換を積極的に実施し、カリキュラム変更やシラバスの見直しをしていく。

カリキュラム変更・シラバス公開に伴い、多くの業界の方に授業内容を見ていただける環境は整ったので、意見をいただける関係構築に注力をしていく。

実習中以外にも訪問し、関連業界との繋がりを強化するとともに情報をいただき、全教員へ共有を行い生徒への指導にも役立てていく。

#### ③ 特記事項

特に無し

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・薄井委員(医療秘書科として):どの組織にも言えることだが、第3者評価や意見表明を受けることは質改善や効率化に不可欠と言える。学生の積極性が不足しているという意見もあるが、実習という、そもそも慣れない環境の中で積極性を見出すことや期待することは、我々自身も過去を振り返ってそうであったように難しいと思う。当院が導入している人事考課では、まず規律性(日常サービスや勤怠)と責任性(自分に与えられた事をベスト尽くして実行する)、次にチャレンジ(積極性)や周囲への気配り(協調性)というステップで進めることが出来たらと考えている。

・久保委員(診療情報管理士科として):例えばどのような態度や行動が『積極性がある』、『積極性が不足』と捉えられるのかを、具体的に把握する。把握しているのであれば、実習前に訓練や演習を取り入れてみるなどの工夫はどうだろうか。パソコンスキルなどの実践的実技が不足しているように感じる。

・濱田委員(診療情報管理士科として):評価者が様々であり、その「評価」自体の「評価」を行ってもよいかもしれない。学校に求める学生像が、あまりにも独り歩きしている風潮だけは個人的に危惧している。無論、外部との情報交換や情報収集は常に必要だが、学生は学生であり、中間層以上の底上げを当面の目標とし、「水準」の底上げに注力して頂きたい。

・高田委員(医療秘書科として):実習評価の活用に、実習先医療機関の職員を招き、生徒発表による実習報告会の開催なども有効的と考える。

笹田委員(介護福祉科として):外部との意見交換は大切であり、保育・介護分野の産学連携は良好であることからカリキュラムに反映され、就職にも連動していると思われる。医療系へのアプローチは重要で、メディカルセクレタリーの養成では医療機関も課題となっている。今一歩前進が必要ではないか。

・萬委員(介護福祉科として):教員の出入りが若干多いように感じている。それにより、過去の経緯や情報が途切れる事があると思う。



#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

昨年同様、就職率・検定取得率に関しては低くはないが、現状維持となっている。向上していくためには、継続的な対策が必要であり、卒業学年に適切な対策をいち早く見極め実施していかなければならない。

昨今、入学した時の気持ちを失い目的喪失や進路変更となり退学に至るケースが増加している。退学率の低減が最重要課題である。

自宅での学習習慣の少ない生徒が多く、自発的な勉強方法指導と、資格取得へのモチベーションの維持が必要と感じる。

##### ② 今後の改善方策

1つのクラスに対して、複数人で担任業務を行うようにしていく。生徒から担任がいつでも相談を受けられる環境作りをしていく。

精神的に弱い学生が増えているため、教職員が対応方法を研修し接していくとともに、実習先にも理解を求め共有していく環境を作っていく。

卒業生の卒業後の把握は訪問などを実施する事と、同窓会担当者よりアプローチをしていく。

職業経験の無い担任メンバーが増えてきている状況を受け、勉強できる機会(医療事務)を設けて、授業と業界の理解をしていく。

##### ③ 特記事項

特に無し

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・薄井委員(医療秘書科として):学生も自分の将来について色々と考え悩みもあると思うし、そう考える理由やそう行動する(あるいは行動しない)理由もそれなりにあるのだと思う。気付きへのアプローチが良い方向に繋がればと考えている。職業体験のない担任の方々が増えてきている現況とのことで舵取りが難しい部分もあると思うが、医療事務の学習機会など場合によっては専門的支援を頼ることも選択肢の一つと考える。

・久保委員(診療情報管理士科として):勉強ができない生徒と勉強方法がわからない生徒が存在していると思う。後者であれば、その学生にあった学習方法を入学した時点から模索することも上記解決策の1つになりえると考えられる。

・大谷委員(介護福祉科として):実習中の教職員と実習先との連携、関係性がとても重要である。学生についての情報を密に共有し合い、学生個々に合わせた実習しやすい体制を周囲で作り上げていく事も大切である。

・濱田委員(診療情報管理士科として):学生数が減っている昨今、学生数の確保や卒業までの定着は組織の運営にも直結する問題でもあり、何よりも注力して取り組んでいただきたい事柄である。特に、当面の目的無く入学し

た学生のモチベーション維持は、難題であり、その組織の「質」を問われる部分と個人的には思っている。友達教員でも駄目だが、現在では厳しすぎても駄目という教育現場泣かせの世情ではあるが、是非「札幌医療秘書福祉専門学校ブランド」として、改善を図っていただきたい。また、学生同様に実務経験の無い教員も現場見学など、業界を巻き込んでタイアップするよう協力期間との連携をより一層密にするのが望ましいと思う。

・高田委員(医療秘書科として):資格取得率の維持・向上だけではなく、必要な資格の選定、1回目の試験での合格など質の向上も重要と考える。それは、生徒の学習向上やモチベーション維持へつながると考える。

・萬委員(介護福祉科として):退学率の低減は、様々な要因があると思われるが、入り口の段階で何かもう少し、卒業後のビジョン等を持ってもらう事も必要かと思う。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

在校生に対しての支援体制は整備されているが、卒業生や中途退学者への支援は不十分である。

経済的側面に対する支援だが、奨学金受給者が年々増えている中ですべて対応(供給)しきれていない状況がある。

就職をゴールと設定している状況が見受けられる。あくまでもスタートと捉え、長期就労の支援を整備していく。また卒業後の相談に関してもできるように、開かれた学校作りが必要である。

### ② 今後の改善方策

卒業生と中途退学者との繋がりを強化していくために、同窓会 LINK の活用を強化するとともに、ホームページの認知拡大と卒業生対応窓口の設置がポイントとなる。合わせて再就職支援の仕組みづくりを行う。

経済的支援に関しては、世の中の情勢を見極めながら本部と連携して対応をしていく。すぐにできる事として、入学者に対して奨学金の周知と徹底を行うようにしていく。

保護者との信頼関係を築き上げるために、担任より情報共有の徹底を行う。また、保護者からも連絡をしやすい状況を作る。

学びの多い課外活動は、学科を超えてボランティア活動を積極的に支援していく。

### ③ 特記事項

特に無し

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・久保委員(診療情報管理士科として):北海道診療情報管理研究会では、管理士の求人情報も掲載しているので活用ください。専門職であればあるほど、卒業してからも勉強は必要であることを擦り込み、実施しているとは思いますが、活躍している卒業生から卒業教育の必要性を語ってもらう。

・大谷委員(介護福祉科として):卒業生に対して、再就職支援の仕組みを作ることはとても心強い。必要時に連絡、活用しやすい工夫があると更に有効なものになると思われる。

・濱田委員(診療情報管理士科として):卒業生対応窓口の設置がされていなかったのは少し驚いたが、教育現場としての体制としては必須な為、早々の対応を願いたいと思う。

・笹田委員(介護福祉科として):経済的問題での中途退学はあってはならないことではないか。求人各社独自の奨学資金・生活資金制度の制定の要求や、既存制度制定会社と生徒のマッチングを全職員が取り組み、中途退学防止に取り組むべきである。

・萬委員(介護福祉科として):卒業してからも頼りになる学校であって欲しいので、再就職支援室等の部署もあってはよいのではないかと。個人情報の問題もあるが、卒業生名簿等を作成し、卒業生がどのような企業で活躍しているのか公開してもよいと思う。

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

防災に対して生徒の意識を向上させていく必要性がある。

校内の教室環境が整備されつつあるので、次はそれを最大限に生かし、教育成果に繋げていく必要がある。

### ② 今後の改善方策

昨年度より、クリニック室が新設されシミュレーションができる環境や FREEWi-Fi, 各教室のプロジェクター設置等環境は整ったが、さらに現場に即して実践的な授業展開ができるよう、シラバスやカリキュラムを見直していく。

防災に関しては、一昨年の地震やブラックアウトを教訓に避難の重要性や、普段からの準備等、授業を通じて伝えていく。

### ③ 特記事項

特に無し

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・高田委員(医療秘書科として): 今後は防災に限らず「感染予防」についても重要と考える。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、学生募集に苦戦しているのが現状。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・薄井委員(医療秘書科として):他校も同様に学生減によるクラス数の減少を耳にします。就職活動をスピード感をもって行えるという発信も保護者や学生を安心させるメッセージであり、選ばれる学校条件の一つではないかと考える。

・笹田委員(介護福祉科として):高等学校とのより密な関係作りが今後の課題と思われる。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

#### 【委員コメント】

・特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

外部からの意見を頂く機会は以前より増えたが、まだ不十分である。

### ② 今後の改善方策

より多くの外部評価を頂き、学校教育に取り入れた上でより精度の高い改善を実行する。

### ③ 特記事項

特に無し

### ③ 学校関係者評価委員会コメント

特に無し



## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

### ① 課題

介護や保育の分野では、ボランティア等で地域貢献しているが、医療系の学科は不十分である。

### ② 今後の改善方策

学科に捉われず、ボランティア活動を実施していく。また、施設や医療機関から情報共有をして頂き、生徒へ情報を開示していく。

今後の若手職員の人材不足の観点からも、卒業生の支援を強化することにより、離職率を低下させ社会貢献をしていく。

### ③ 特記事項

特に無し

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・薄井委員(医療秘書科として):ウィズコロナを鑑みて、在り方が変わるものと考えます。学校周辺の清掃や美化活動などが挙げられますが、今後の状況や動向に合わせ、ご検討いただくのが適切であると考えます。

・久保委員(診療情報管理士科として):ボランティア活動と並行して献血への協力はどうか。

・高田委員(医療秘書科として):医療系のボランティアにこだわる必要はないのではないか。医療を今後知る上でも、「広い視野」や「比較」ができるよう幅広い分野でのボランティア活動を進めるべきではないか。

・萬委員(介護福祉科として):新型コロナウイルス感染症の件もあるので、(6)の防災だけではなく、感染症についての知識等が今後社会貢献にも必要になるのではないかと考える。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・授業、就職先の理解を深めるため、教職員は継続的に勉強を行う。

・退学率低減に向けて、教職員の連携強化と職業の魅力を伝え続ける。

・オンデマンドの活用の構築。生徒と教員の理解向上。

・第一線で活躍している現場の方にお越しいただき、仕事の魅力や長期就労について生徒に向けて講話をしていく。

・卒業生に来校していただき、学生時代の勉強方法などアドバイスをしてもらう。

・産学連携を強めるために、ボランティアを募集している医療機関や福祉施設に学生を送り、社会貢献をしていく。

・内定先に卒業生の様子を確認するために、訪問やアンケートを取り、フォローの徹底をしていく。

・上記に関して単発で行うのではなく、長期的に実施できる仕組み作りをする。